

スイス民間防衛
(défense civile)

戦争のもう一つの側面
(Un autre visage de la guerre)
pp.224-272

1969

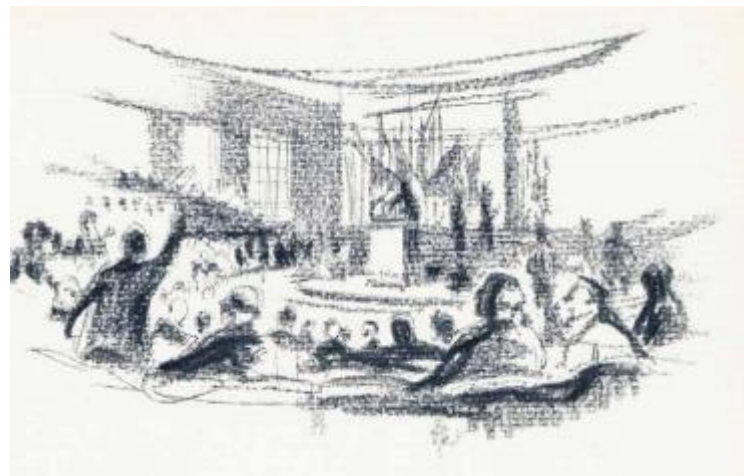
フランス語版からの翻訳

民間 防衛

我々は、武器の試練を回避できるよう望んでいる。破壊的戦争は、それを始めた者も見逃すことはない。この理由で、別の道を選択したくなるかもしれない。

戦争の別の顔

裏切
敗北主義と平和主義
愛のプロパガンダ
脅迫宣伝
経済戦争
スパイ行為
破壊工作
政治的生活の混乱
テロ
クーデターと介入



第二形態の戦争は、目に見えないので、なおさら危険である。それは外から来るようには見えない。偽装され、さまざまな方法で国内に忍び込む。それは我々のすべての制度や、我々の存在様式を転覆することを狙っている。最初は、誰も不安にさせないように、注意深く進められる。勝利は血塗られてはいない。多くの場合、暴力を使うことなく、実現される。これに対して、我々は決意を持って、身を守る必要がある。

我々は警戒を持続させなければならない。ここでの成功は、兵器や軍の力によるのではなく、我々の道徳的な強さ、精神的な抵抗によるものである。

敵は同調者を求めている

ヨーロッパ征服を夢みる、ある国家の元首が、小さなスイスを武力で征服することは無用だと判断することは、認められよう。単なるプロパガンダという手段で「新秩序」をもたらすことができそうなときに、そのような小さな結果のために、軍事力を行使することは、何になるだろうか？

そのような弱体化工作は、スパイと「イデオロギー」の支持者の地下ネットワークの構築から始まる。このネットワークは、国の政治的枠組みの中で最も活発で危険な分子を引き寄せようと努める。「革新者」と「進歩主義者」は、多くの場合、新しいアイデアを探し求めており、社会生活の具体的な問題を解決した経験のない知識階級から採用されることを我々は忘れてはならない。

数多くの組織が、巧みに偽装して、社会的進歩や正義、すべての人々の福祉の追求や平和を装って、「新秩序」の思想を少しずつ広めていく。この「新秩序」は、すべての社会的不平等に終止符を打ち、世界を地上の楽園に変え、控えめな人々を支え、文化活動を推進する。... 不満な者たち、失望した者たち、弱者たち、理解されない者たち、失敗した者たちは、気に入るだろう。ジャーナリスト、作家、教職者たちを引き入れることは、重要である。彼らの言動は、性急で、黄金時代を夢見る青年たちに対して、特に効果的だからである。

また、「新秩序」のインテリたちは、ほんとうに非合法的な激しい活動はすべて避けるから、ますます多くの聴衆を引きつけるだろう。彼らの活動は、表現の自由を装って行われる。

目を開いて見よう

PSS(社会進歩党)の機関紙から

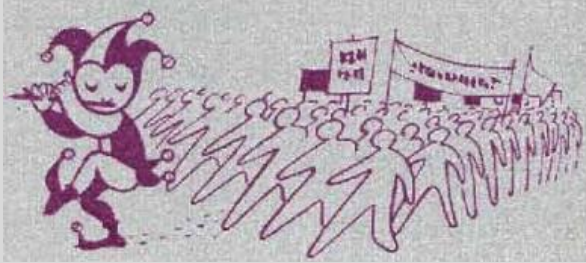
「昨夜、グランサルデュカシノで、社会進歩と世界平和の擁護を目指す我が党が結成された。悲惨さに対する闘いがまだ小さな結果しか得ていないのは事実である。心優しき人々は、そのような寛容な理念に献身する義務を自ら負うだろう。聴衆には、多くの著名人にいた。

幸いにも、多くの若者がX教授の講演を聞くことができた。その講演で、反動的資本主義の不正義と結びついた、現状維持というレッテルを貼られた、わが国の伝統的政策を捨て去る必要があることを、聴に納得させるのは容易なことだった。

別の新聞記事から

「昨夜のX教授のカジノでの講演では、聴衆はまばらだった。そのことは、世界平和と釈迦進歩を支持する戦いに支持者を勧誘することの問題である。実は、心優しき人々の心にある2つの目標までは、我々は賛成である。残念ながら、理想主義的な行動を装った、新秩序を支持するプロパガンダが隠れていることは明らかである。これは、わが国の制度を弱体化させ、そのような体制が根を下ろしたところでは、どこであれ、あらゆる形の自由を抑圧され、新たな特権階級が登場し、政界平和を危うくし続けるような体制を、わが国に確立することを目的としている。わが国の新秩序の支持者たちは、彼らが説くことと、彼らがわが国に導入しようとしているイデオロギーの具体的な成果の間に、深い溝があることをいつ理解するのだろうか？」

敵は同調者を求めている



中央にいるエージェントの秘密報告：

「我々の党の結成が最小限に評価されたことは、我々の利点である。その重要性は実際、最初からの少数のメンバーにのみ評価された。このような単純な考え方は、我々の目的に役立つ。我々の目的のために不可欠な相当数の知識人を獲得した。その中には、全国的に知られる著名な科学者であるX教授がおり、その権威で我々の活動を保証してくれる。

概して、これらの人々は幸福で眠っており、他のあらゆる形態の政府に対する彼らの伝統的な制度の優位性を確信しており、我々が怖れていたような反応をしていない。我々のネットワークは抵抗にあうことなく成長する。

我々は、知的で活動的で、野心に燃え、大金を必要としている人物、M.J.を新しい党首にした。ブルジョワ政党では彼の野心は満たされない。控室で待つ代わりに、彼は段階を飛ばすことにした。彼は仲間から断固として拒否されたため、彼は成功するために何でもする。

我々の活動は正しい方向に向かっている。」

社会進歩党は裏切るだろうか？

社会進歩党は禁止されなかった。同様に我々の民主主義も禁止されない。

良心の自由は我々の憲法で認められている。

全体主義国家では、そのような心の痛みはない。彼らは、知識人や学者や芸術家を監視し、必要なら投獄し、公式イデオロギーに反する表現を阻止する。

我々は同じことは出来ない。

いわゆる自由がいつ裏切りの始まりになるかを知ることだけが問題となる。

共通の利益によって要求される改革を伴うが故に、国家や制度に対する客観的な批判が必要であるとするなら、体系的な中傷は、不幸な結果をもたらし、防御の可能性を弱める可能性がある。

我々の伝統である民主主義の自由に反するイデオロギーを導入しようとする市民は、国益に反する活動をしている。

現時点では、疑わしいが、社会進歩党は意図的な反国家的行動を示していない。

外国のプロパガンダのトリック



国に戦闘を放棄させることで、抵抗を克服できる。軍には飛行機、装甲車両、戦闘で訓練された軍隊がいる。これらすべてが無駄であると国民を説得することができれば、火器の試練を受けることなく、敗北させられるだろう。

それは、巧みなプロパガンダの結果かも知れない。敗北主義は心地よい言葉で、最も高貴な感情に訴えかける。諸国民の協力、普遍的な平和への献身、慈善の秩序の確立、相互扶助、戦争の恐怖と破壊と虐殺・・・

結果：時代遅れのわが国の軍事防衛の放棄
新聞は寛容な気分インスパイヤさらた記事の売。学校は諸国民の間の友愛を説く。教会は福音主義の慈善を示す。プロパガンダは最も危険な意図に奉仕することで、最も立派な運動から、利益を得る。

不意を打たれぬようにしよう

このような欺瞞を非難しなければならない。

スイスが征服の野心を持たず、どの国も攻撃しようとしておらず、人類の平和を希求していることを銘記しよう。しかし、世界の現状では、平和を維持し、他に奉仕し続けるには、軍事力による安全保障が必要だと考える。

近代兵器を配備した大国には対抗できないと言う人々に対して、我々こう答える。経験はその逆を証明している、と。

今日、戦争が勃発すれば、必然的に多数の国々が関与することになる。そのため、敵の攻撃の重圧を一国で耐える必要はなく、攻撃者の軍事力の一部の攻撃を受けるだけである。そのような軍事力に対してなら、我々は対等の軍事力で対抗できる。

地上で軍隊をまばらに展開することを必要とするという意味で、技術の進歩は我々に有利である。我々の防衛は非常に容易になった。
我々の軍事力を放棄させるために、わが国を征服する重要性に見合わない軍事力が必要になることを、敵は知ることになる。

1914～1918年及び、1939～1945年に我々が撃を免れたのは、偶然によるものではない。この僥倖は、自らを守る不屈の意志と、わが軍の効果的な準備によるものである。

最後に、フィンランドの例（1939～1940年）とイスラエルの例（1956～1967年）は、我々を支持する実例である。これら自国を防衛した小国は、国家存亡をときを生きのびた。

敵は我々の抵抗する意志を弱体化しようとする

誘惑

核兵器反対
スイスにはいらない

農民たち
諸君らの土地を
戦車を入れるな

軍事費削減運動

何百万も
公営住宅の建設
すべての人に休日
未亡人と孤児と障害者の年金の増額
労働時間短縮

より良い未来に
賛成

平和、平和！
平和維持教会設立集会

平和のためのキリスト教
兄弟会議

汝、殺すなかれ

特に女性たちは戦争が
起きないように
活動しなければならない。

警戒しよう

世界とともに平和に生きることを望まないスイス人がいるだろうか。戦争を非難しないスイス人がいるだろうか。平和な生存するために、我々は国境に軍隊を配備している。

人類の幸福は、我々にとって重要である。我々は取りうる手段の範囲で、それに寄与している。たとえば赤十字、開発途上国に対する援助、戦争状態にある国の外交代表など。現実はこのありさまである。それを無視するなら、我々は甘く、無謀であろう。我々の周辺国が武装し続ける限り、我々は国防から逃れられない。

最近の二つの戦争を鑑みて、欧州で対立する交戦国によるスイスへの攻撃の可能性を考えなければならない。

たとえその宣伝文の中に、聖書の記述が引用されていても、そのプロパガンダの論句に基づいて潜在的な敵であるか判断できない。我々は、二セ平和主義者たちが、武装するのをやめないでいることを銘記しておこう。我々の信念は誠実なものである。我々は誰も殺そうとは考えていないが、自己防衛は確実名もオンにしなければならない。

我々が武器を使用せざるをえないようなことがないように！我々は、これ以上に誠実な願いを持たない。

敵は意外なやり方で攻めてくる

ある国家元首の「政治的告白」より

我々は、勝利への道をたゆまず歩み続ける。我々は、敵を憎む。我々は容赦なく敵を破壊する。我々が彼らを信頼させることができたなら、それははるかに容易になる。共感プロパガンダは、我々の闘いの中で最も重要な武器の一つである。我々は、コンサートや歌や芸術や旅行の本で、彼らに文化をあふれさせる。我々は、美術展やスポーツフェスティバルを開催する。我々は、旅行代理店を開き、魅力的な観光パッケージを提供する。我々は、科学交流を維持し、できる限り友好的な関係を確立する。もちろん、我々は、わが国の国民が彼らの新聞や本や映画やラジオやテレビ番組に感染しないようにする。しかし、彼らは我々の文化に気に入るだろう。なぜなら、彼らは愚かで退廃的だからだ。我々は、彼らの文化に関心があると伝える。彼らは誇りを持ち、我々のアイデアをより無害だと受け止める。そして、彼らはすべてが政治とは何の関係もないと信じる。しかし、我々にとって唯一の目標は、最終的な勝利である。好むと好まざるとに関わらず、彼らは我々に共感を覚えるだろう。そして彼らは、我々が彼らの退廃した世界に、ゆっくりと、しかし着実に縄を引いていることに気づくことはないだろう。



自由と責任

民主主義はすべての人の意見を尊重する。これは、その最大の利点のひとつである。国家は市民の私的な行為に干渉する権利を持たない。新聞、ラジオ、テレビは自由である。ハラスメントを受けることなく、誰もが平和な時に国外に行ける。誰もが自分に合った政党を選ぶ。だから、民主主義は自由が空虚な言葉ではない国にある。

しかし、国はコミュニティの保護について心配しなければならない。とりわけ、スパイ行為と戦わなければならない。スイスには思想犯罪はないが、スイスの防衛力を弱めようとする者を監視しなければならない。弱体化は、公共精神の墮落者によって行われうる。

自由にイエス、混乱にノー

したがって、国家の独立を求める我々を弱体化させる可能性があるイデオロギーに対して国民に警告することは適切である。教育者、政党、労働組合、愛国団体など、世論に基づいて行動するすべての人は、自らの責任を常に意識しなければならない。

敵は我々を眠らせたい

国家元首の
演説より：

「...我々にはただひとつの深い願いがあり、それはわが国の人々のすべての心にある。すべての人々と平和に暮らし、人類の幸福のために協力することである...

この目的のために、我々は日々経済力を高めている。間もなく、わが国の国民は自分の家、テレビ、自動車を持てるようになる。

我々は、すべての人々と経済および文化的関係を確立する。我々は、貧しい人々がその生活レベルを上げるのを助ける。我々は彼らに進歩への道を示す。

残念ながら、今後すべての軍事競争を放棄しなければならないことをまだ理解していない国があることを残念に思う。彼らが我々の例に従い、世界の平和を確保するために全力を尽くすように!!



我々は眠っていない

我々は、我々に対する彼の善意を保証するこの外国元首の演説を聞いた。

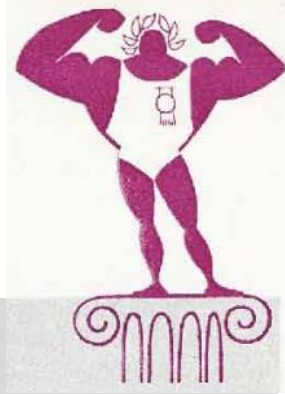
しかし、我々は彼の著書「政治的告白」も読んだ。したがって、我々は彼の現在の発言について何をすべきかを知っている。

我々が知っているのは、巨大な全体主義勢力のための戦争に備えて、衛星国に要求される役割である。これらの衛星国は自分たちの「保護者」のために、すべてを捧げさせられる。保護者は、衛星国を飢えさせ、最高の肉体労働者と頭脳労働者を収奪する。我々は所有するものすべてを剥奪され、奴隷のように働かされて、我々とは何の関係もない勝利に貢献させられる。

この強制労働体制には、あらゆる種類の屈辱が加えられるだろう。しもべとして扱われ、自由な世界の粉碎に参加させられる。解放しようとする我々の試みは、冷酷に打ち碎かれるだろう。避難場所を求めて世界中に散らばる国なき人々と苦痛をともにして、逃げる他に道はない。

若者に関して言えば、彼らは準軍事組織に採用され、報いられることなく、暴君の野望のために生贄にされる。

敵は我々を威嚇しようとする



全体主義国家のスポーツ責任者からの指示

1. 我々の国旗を守らなければならないすべての国と各分野で、我々はアスリートに勝利することを要求しなければならない。我々の成功は、我々の政治体制の優位性を証明するはずだからだ。
2. 各アスリートは、自分の行動について、わが国の人々と我々の党に対して責任を負う。
3. チャンピオンは自分のものではない。彼は自分の人生すべてを物語の準備に負っている。
4. 4国際大会の場合、イデオロギーの点で確実な者のみを選択する。
5. 我々の代表団は、厳格な規律を持つという印象を各地で与えなければならない。また、彼らは、他の国の代表とどのような個人的接触をも持つてはならない。
6. 6オリンピック代表に選ばれた学生は、2倍の奨学金を受け取り、試験を免除される。
7. 金メダルの勝者は、年金と特権を備えたもうひとつの勲章を授与される。
8. 不十分な成果には制裁が科される。

スポーツの理想を守る

すべての健康な国は、国の未来である若者にふさわしいスポーツ活動を促進するよう努めている。

健全な肉体、健全な精神…スポーツは、世界中の若者の平和な出会いを促進するものでなければならない。お互いを知ることによって、若者は自分自身を尊重することを学ぶ。したがって、それらは世界の未来への希望の要素である。しかし、スポーツ大会が政治指導者の手に渡るプロパガンダの武器になってはならない。国家が勝利を収めたアスリートを誇りに思うのは普通のことだが、これらの勝利がイデオロギー的優位性の要素と見なされるのは不健全である。

真のスポーツマンシップは、攻撃性ではなく、対戦相手への敬意を育む。全体主義国は、スポーツイベントをイデオロギーのプロパガンダとして利用する。我々はこの非常に崇高な理想の変更を拒否しなければならない。

敵は我々を威嚇しようとする

惑星間空間での新たな勝利

昨日、Xによって打ち上げられた新しい宇宙船は無期限に稼働できる。飛行中にロケットで燃料を補給されるため、ほぼ無制限に自立活動できる、これは同時に、宇宙飛行士が最長の旅に出る日が近づいていることを意味する。

宇宙船の建造者であるボンマー教授は、記者会見で、自分の装置は技術進歩のビジョンに基づいて人類を前進させるため、平和の大義に大いに役立つと説明した。まもなく、労働者階級は惑星間空間で休暇を取ることができるようになるだろう、と教授は付け加えた。

そのようなニュースは、平和な人々の良心を悩ませる可能性がある。こうした武力の誇示は、小国を不安にさせる可能性がある。小国は超大国からどのように防衛するのか？

巧妙なトリック

考えよう。

いかなる進歩も、それがどこから来ようと、人類が不活性物質に勝利したことを示している。

科学的発見は、それを遂げた名誉ある国だけに関係するものではない。科学的発見は、我々全員が人間という種に属しているため、我々全員に関係している。

我々を知識の道へと導いてくれる人々に拍手を送ろう。

しかし、真と偽を区別する方法を知っておこう。

大国が科学研究に莫大な金額をつぎ込むのは、平和に奉仕するという意図によるものではないことは確かである。そうではなく、軍事防衛の分野で取り残されないように意図して。

全体主義国の労働者階級がまもなく宇宙で休暇を過ごすだろうと言われても、だまされないようにしよう。

今日、労働者階級に提示された条件を見てみよう。

そして、彼らが我々の地で数日間の安らぎと自由を得られることを願おう。

理論はそれによって得られる効果に基づいて判断しよう。巧妙なトリックに惑わされないようにしよう。

経済戦争

「政治的告白」より抜粋：

「...我々の経済体制と社会体制は、いつの日か我々が世界を征服できるほど優位なものである。正解征服こそが我々の目的である。我々の目的の実現を妨げるものは、排除しなければならない。

世界征服するということは、敵に宣戦布告し、兵器の重みで敵を粉砕しなければならないという意味ではばい。我々には同等に効果的で安価な手段がある。

まず、我々の考え方に共感してもらえないすべての国で、我々の支持者のネットワークを広げなければならない。世界中のすべての国で、我々に献身的な友人たちに少しずつ力をつけさせなければならない。

彼らが失敗した場合、我々は恒久的な革命状態を作り出さなければならない。

無秩序状態のもとで、実証された方法で訓練された我々の友人たちが勝つだろう。

革命が難しいと思われるところでは、飢えている労働者階級の絶望を利用しよう。

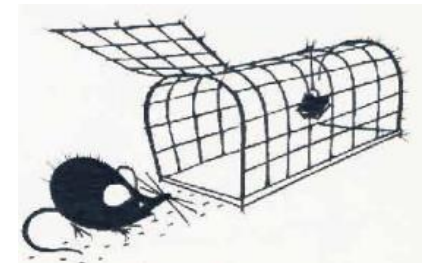
我々の最も有益な戦術は、可能な限りあらゆる手段を使って国を経済不況に陥れることである。空腹な人々には、パンを約束するだけで、話を聞かせる。

外国依存を避ける

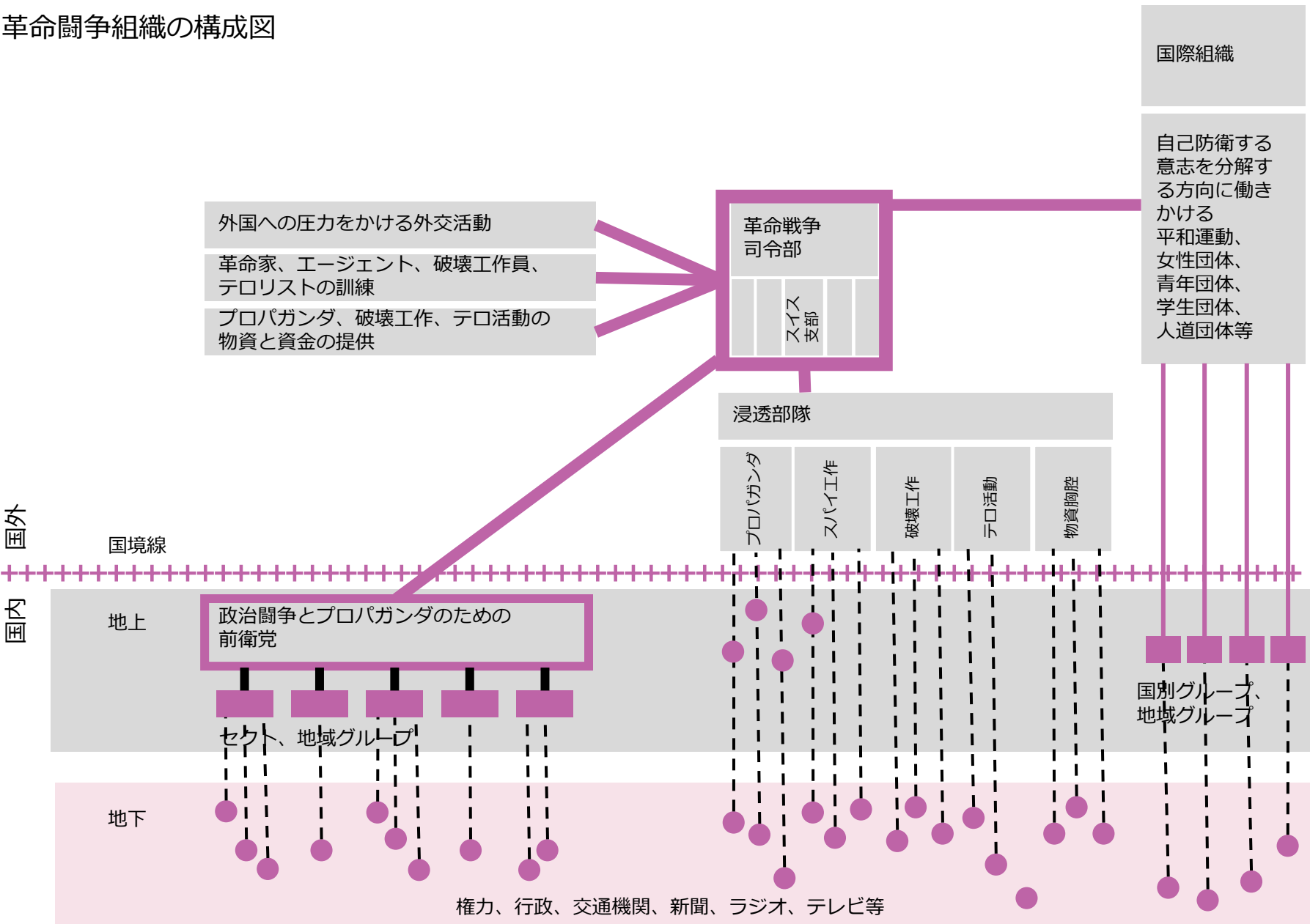
総力戦の世紀において、経済は政治と戦争の重要な武器である。この点で、我々が外国人に依存することは重大な危険となる。我々の侵略者となり得る国に、我々が必要とする物資の事実上の独占を与えることは何としても避けなければならない。連邦は、我々の中立性と安全保障の要件に一致する開かれた通商政策を実践する。政府は我々の輸出を規制し、我々が提供したはずの武器をいつの日か我々の方向に向けないようにするだろう。

政府はまた、外国の商業組織のスイスでの代表者によって実行される政治活動に対しても介入する。

国民一人一人は、わが国に害を及ぼす可能性のある経済交渉を避ける。



革命闘争組織の構成図



敵は、同調者
を探そうとす
る。

敵は、我々の
軍事力を弱め
ようとする。

敵は、我々を
眠らせようと
する。

敵は、我々を
脅そうとする。

敵は、我々の
経済力を弱め
ようとする。

**我々は、今日の戦争の第二形態につい
て話した。**

**これらは、我々のまわりで、日々起き
ている。**

**我々の運命は、これらに対する我々の
反応にかかっている。**

**明日のことを考えよう。自分の行動の
結果を想像してみよう。**

どちらか 分断されたスイスは降伏

敵は、抵抗する我々の意志を打ち砕く
敵は、国民と政府の間に楔を打ち込む
敵は、攻撃する準備は整える
敵は、暴力を使う
敵は、我々を絞め殺す
終焉

あるいは 団結スイスは、運命の支配者であり続ける

我々の抵抗する意志が損なわれない
国民と政府は密接に相互依存している
我々は自分自身を守る準備ができている
打撃には打撃で対応する
我々は敵に手を差し伸べることなく戦う
我々は追従しない
スイスは自由を維持する

弱さが敵を呼ぶ

全体主義国のマスコミが、我々に向かって攻撃を放つ。我々を侮辱し、不当な非難を投げつける。そして、ただちに必要量の製品の配送が遮断される。我々は、特に彼らのイデオロギーに対する敵意について非難される。

我々に対して取られた経済的報復措置で、我々の必要不可欠な原材料の一部が外国から入ってこなくなり、工場の操業に影響を与える。

そして、深刻な危機が見えてくる。



誰もが知ってのとおり、経済的および政治的推移の結果として、当社は2000年9月30日に労働者の解雇を余儀なくされた。

経営者

強いスイスは脅かされない

恫喝されないと決意したスイスは、国家体制を危険に陥れることなく、経済危機に耐えられる。

特定国あるいは特定国家群の物資供給が遮断される可能性がある。我々が警戒し、特定国家群と同盟しておらず、経済協定を自由に締結する余地を残しておいたならば、我々は他の国と関係を結ぶことによって損失を補うことができる。

この想定で、我々の中立の必要性が示される。

すべての失業者は、公共事業の開始で、再吸収される。従業員と雇用主は、互いに対立するのではなく、満足のいく解決策を共同で模索する。誰もがコミュニティ全体の利益のために犠牲を払う。

誰もが知っている世界的な経済の推移の結果として、当社は生産を大幅に削減せざるを得ない。しかし、我々は失業を避けるために可能な限りのことをする。わが社の労働者従業員には、関係する情報を適時に提示する。今のところ、スケジュールを大幅に変更する予定はない。

経営者

混乱の構図

1月15日	金属部門でのストライキ。
2月16日	繊維産業での暴力的なデモ。
2月18日	繊維部門でのストライキ。
5月20日	社会進歩党は、仕事とパンを求めて闘っている労働者を支援することを約束する。社会進歩党の指導者と外国権力の代表者との間の接触が報告される。
6月4日	臨時総会で、金属労働者の代表者は組合役員を解任することを決定した。組合の指導者は社会進歩党の指導者によって指名される。
6月10日	金属労働者による新たなストライキの宣言。
8月15日	国外退去となった外国人労働者が、国外退去を拒否する。彼らは工場を占拠する。警察は介入するが、排除に成功しない。
9月20日	公共交通機関のストライキ。連邦参事会は軍隊を動員して秩序を回復する。動員命令を拒否する鉄道職員もいる。
11月20日	食料品の価格は急騰する。

健全な労働者階級はだまされない

スイスの労働組合の代表者たちは、突然の経済不況によって引き起こされた状況を調査するために、総会を開催した。彼らは皆、ストライキは善よりもはるかに害を及ぼすだろうという意見である。

現在の状況は、雇用主が犯した過失の結果ではない。我々をその慈悲の手に委ねようとするのは、外国勢力の意志によるものである。工場でのストライキは、物事の状態を改善するどころか、悪化させる。

雇用者と労働者の間で現在発生している問題は、内部交渉を通じて直接解決することができ、また解決する必要がある。現状では、国民の団結を守るために犠牲を払うことに誰もが同意しなければならない。

さて、我々は何を見ているのだろうか？社会進歩党の指導者たちは、不信の種をまき、要求をかき立て、混乱を助長するために、労働者の組織に侵入しようとしている。

外国から着想を得たこれらの作戦に、スイスの労働者はだまされない。

怯えたスイスはセイレーンの声を聞き始める

全体主義勢力のマスコミ、ラジオ、テレビは、日々、我々に、忠告と、激励と、脅しを繰り返している。我々が全体主義ブロックの方を向けば、何の不自由もないように我々を支援すると言う。あるいは我々が同盟を結ぶことを同意すれば、ただちに我々の状況は改善されると約束する。一方、進歩に耳を傾けないままでいれば、最悪の災害が我々に降りかかるだろうと脅す。

ある新聞に掲載された社説の引用：

「本紙取締役会は、前回の会議で、わが国の現在の政治情勢および経済情勢に懸念を抱いた。現在は難局にある。そして将来はさらに悪化すると見られる。というのは、スイス政府が、新秩序の下でスイスが羨むべき地位を占め得るように提示された、多くの機会をつかめていないからである。本紙は、反動的な政府の政策に影響されることはない。我々は進歩の道を断固として邁進する。読者が本紙を支持してくれると確信している。」

精神的抵抗

新聞記事からの引用：

「…非常に多様な背景を持つ約50人が昨日、0に集まり、スイスの状況とそれに対処するために政府が講じた措置について論じ、印象的な意見の一致をみた。彼らは全会一致で、現下の諸問題について認識させるため、連邦参事会に覚書を送ることを決定した。これらの問題の中には、スイスの報道機関全体についての問題がある。覚書の署名者50人は、報道機関が、スイス国民にかかっている危険にまったく気づいていないと批判している。全体主義勢力の善意提案に関して、報道機関が非妥協的態度でいることは、スイスに多大なる損害を与えかねない。連邦参事会はこれに注意を払うべきだ…

スイス連邦法務警察長官は、直ちに首都で記者会見を開いた。長官は大半のスイス新聞の示している模範的行動を賞賛し、スイスのすべての価値観を精力的に擁護する道を歩み続けるよう促した。そして長官は、スイスのすべて報道機関は、独立と自由のための闘争の最前線に立つべきだと述べた。

もし外国勢力がスイスを攻撃したいのであれば、スイスの報道機関がいかに無頓着であっても、そうするだろう。重要なことは、スイス国民が、あらゆる外圧や恫喝に日々、抵抗することである。我々は自らの運命の主人であり続けたいと考えている
連邦参事たちは大きな拍手を送った。」

政府を覆す

社会進歩党は、最初のラウンドに勝利したと考える。
社会進歩党は、攻撃の第2段階に進む。
社会進歩党の目標は、国民を政府から引き離すことである。
その目標を達成するには、抵抗するすべての人を中傷し、疑いを投げかける必要がある。

州政府と連邦政府の最も影響力のあるメンバーが特に標的にされる。彼らを疑わせることによって、基本的に政府を弱体化させる。国民が政府を信頼しなくなると、国民を操作するのは簡単になる。社会進歩党によって虚偽文書がばらまかれる。体制の効力を弱める手段はすべて使われる。

伝統的な政府機関の正常な機能を妨害することは、あらゆるレベルで良い結果をもたらす。立法機関（州議会、連邦議会）は、弱体化に最適な環境である。そこでは社会進歩党の議員が措置をとれる。
スパイと諜報機関による協調行動は、軍の価値に疑問を投げかけるだろう。軍は絶え間ない攻撃を受ける。

国民と政府は団結している

このような状況で、連邦参事会はスイス国民に次のような言葉で呼びかける：

状況を冷静に客観的に分析すると、国境の内外で戦争が実際に激化しているわけではないが、我々は戦争状態にあると考えるべきだとの結論につながる。我々は武力戦争を戦っていないかもしれない。

しかし、今日、武力より破壊的ではないにもかかわらず、同じように手ごわい政治的影響を与える戦争の形態が存在す。スイスは何ヶ月もの間、自衛権を行使するに値する状態にあると考えられるほどの、圧力にさらされてきた。

したがって、連邦参事会は、スイス国民に対し、自由を守るためにあらゆる法的手段で戦うよう求める。

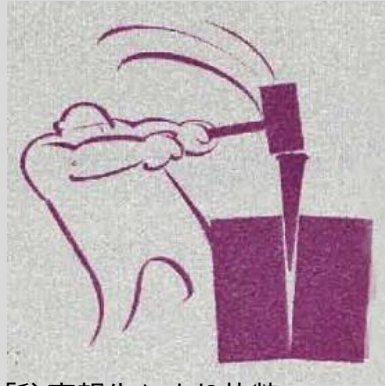
連邦議会は連邦参事会に全権行使を付与したので、スイスの防衛に関するすべての措置を直ちに講じられる。

スイスの放送局の波長で放送される可能性のある、危険でカモフラージュされた敵のプロパガンダに惑わされないでほしい。

スイスの制度と自由を維持するという同じ目的のために、すべてが同じ精神で団結し、我々はこの試練に勝利する。

最も危険な戦争で、神よ我らを護り賜え！

政府を覆す



連邦警察によって押収された「秘密報告」より抜粋：

「私のグループは行動の準備ができています。公共経済局長に関するファイルは完成した。彼は失業を抑える準備をしていたが、我々が作ろうとしているスキャンダルの雰囲気の中で確実に否定されるだろう。

我々を支持するジャーナリストがたくさんいる。他のジャーナリストたちは、我々が作成する文書の信憑性を確信するだろう。一定数のスタッフが、主流及び中規模の報道機関のオフィスに配置されている。

我々のスタッフの1人が、関係を持っている連邦参事秘書と連絡を取ることができた。我々は連邦参事を事件に巻き込み、連邦参事が我々に代わってスパイ活動を行っていると言非難する。

スキャンダルの悪用は綿密に準備してある。スキャンダルはスイスのすべての地域で同時進行する。」

国民と政府は団結している

我々の報道機関が掲載した、いま我々が読んだばかりの文書のおかげで、我々を脅かす危険について最後まで躊躇していた人々も納得した。

問題の連邦参事は、試練から現れる。その参事は標的だったからだ。愛国者が特に支援すべきなのは彼である。彼が準備した法律は大多数に受け入れられ、経済状況を改善するためのあらゆる手段が講じられるだろう。連邦参事会は全権委任で、あらゆる分野で非常に迅速に行動できる。必要に応じて、動員が命じられる。

新聞、ラジオ、テレビは、冷戦のこの段階で決定的な役割を果たした。敵は、報酬を支払っている要員を我々のニュースルームに浸透させようとする。警戒するのは我々の務めである。敵対者の大義を擁護する新聞や外国からの新聞を無視する。我々は、自衛の意志に有害なあらゆるプロパガンダに抗議する。

無秩序と敗北主義の扇動者は逮捕される。敵のプロパガンダに使用された新聞は押収される。何らかの方法で侵略者の大義に仕えるすべての人々は裏切り者である。彼らを裁判所に引き渡さなければならない。

政府を弱体化させる

- 1月15日 いくつかの新聞は、連邦公共経済局長の品位を疑問視した。
- 1月18日 政府の有力者と見なされていた連邦参事に対して、まれな暴力のキャンペーンが解き放たれた。
- 1月20日 連邦公共経済局長が辞任を拒否。いくつかの新聞は、いまだに、局長に対して発行された文書の信憑性に疑問を投げかけている。
- 1月25日 連邦参事Xに対する攻撃が続いている。彼の忠誠心は強く疑われている。
- 3月15日 連邦参事Xの事件が再燃する。彼の秘書はスパイ活動で告発されている。
- 4月29日 社会進歩党の指導部は、ゼネストについて語っている
- 4月30日 連邦参事Xが辞表を提出。。

国民はもはや誰が正しいか間違っているかわからなくなった。そのすべての連邦参事事は今や容疑者である。何が起きてても...

国民と政府は協力して抵抗する

- 1月15日 連邦参事会は、完全な権限の下で、失業と土地収奪と闘い、国の安全を確保するための厳正な措置を講じている。
- 2月2日 社会進歩党の指導部が組織した、P. P.S. のディレクトリによって組織された全権に対するデモは、成功しない。国民は、これらの悪いスイス人のデモを無視する。
- 5月20日 望ましくない外国人は国境に強制送還される。
- 6月21日 すべての学生街の学生が、スイスの独立を支持してデモを行う。
- 7月4日 社会進歩党の指導部が試みた議会妨害は失敗に終わった。
- 9月14日 連邦参事Xに対する陰謀のリーダーが逮捕され、書類が押収された。
- 9月19日 愛国団体の公式会合

国民の信頼は損なわれていない。。
国は持ちこたえている。スイスはいかなる犠牲も受け入れる準備ができています。

分断…

スイスの隣国で、同じく全体主義ブロックの脅威にさらされている国で、クーデターが協力党を権力の座につけた。

外国軍は「秩序維持のために」すぐに行動を起こした。

したがって、外国軍は我々の国境にいる。

連邦参事会はわが軍の弱い部隊しか動員していなかった。

いくつかの事件が発生した。スイス政府は、脅迫され、謝罪した。

連邦参事会はまた、外圧に屈して、防衛体制の動員を解除した。社会進歩党はこれらの措置を称賛し、近隣の占領者との同盟条約を推進している。

国が分断されている

決意

敵スイスの隣国で発生した事態は、上記で説明したように、用心深いスイスに良い影響を与えた。差し迫った危険に直面し、躊躇していた人々は団結し、人々の道徳的団結が次から次へと見られた。

すぐに支配者と化し、国家の自由の痕跡をすべて破壊する占領者をその家に迎え入れた国の破局は、最も盲目の人々の目を啓いた。少数の裏切り者を除いて、すべてのスイス人は団結し、同じ理想のために死ぬまで戦う準備ができていた。

直ちに命じられた総動員は、何としても抵抗するという我々の断固たる意志を証明するものである。

全体主義国家の元首の脅迫的な覚書は、突き返された。扇動者は直ちに害を及ぼすこと阻止され、法廷に引き出された。

我々の決意は再び、我々を救うだろう。

失敗

破壊工作が長く続く。爆弾攻撃が、産業プラントや倉庫や軍事施設や弾薬倉庫や送電鉄塔や鉄道に対して行われる。

鉄道が脱線する

殺人が起きるが、犯人は見つからない。スパイ事件が大量に起きる。誰が信頼してよいか、誰にもわからない。

いよいよ、敵は至る所に潜り込んでいる。

警察は市民に信頼されておらず、その任務を果たせない。

しばらくすると、敵は、足場と武装組織という「基盤」の確保に成功する。

報復を恐れて、人々は口を閉ざし、テロリストに同調するようになる。

後に、テロリストが「自由の戦士」でないことが明らかになった。テロリストたちは数年間にわたり国外で訓練を受けていた。一部は、自由の戦士として報道された。彼らはパルチザンとして組織され、昼間に仕事をして、夜間に攻撃に参加した。

この混乱の中で、スイスの経済状況は次第に絶望的になり、そして外交政策の圧力は高まっている。

このようにして、スイス人の抵抗の意志はついに失われた。スイスは平和と安全を切望しているだけになる。スイスは自由の代価を払おうとする。

秩序と正義

総動員は順調に行われた。

トラブルメーカーはその場で逮捕され、すぐに軍事法廷に持ち込まれた。

州警察と連邦警察は、厳正かつ迅速に行動した。

既に我々を取り囲んでいたスパイ ネットワークは解体された。スパイは戦争法に従って裁かれる。社会進歩党の指導者と彼の最も近い協力者の逮捕が報告された。印象的な資料が押収された。これには、多くの伝送装置、武器、爆発物、制服などがあつた。テロ作戦の全体計画は現在、司法長官の手に委ねられている。

正義はスパイと裏切り者を取り締まる。国民は自信を持って犯罪者に対する判決を待っている。多くの不審な外国人が強制送還された。

分裂したスイス

社会進歩党の報道記事からの抜粋:

「事態は急速に推移している。周辺勢力との平和を確保するという公約に忠実な、我が党はその目標の実現に向けて着実に取り組んでいる。我々の友人たちが2つの州の選挙で過半数を獲得した。これは最終的な成功への一歩である。

他方、我々が遅かれ早かれ進歩的勢力と署名しなければならない条約締結を早めるために、我々の友人の何人かは交渉の準備をする国外に「亡命」政府を設立した。ベルンの傀儡政府がこの事業を違法であると宣言したのは何の意味もなかった。機能しているというのが事実だからだ。

いわゆるスイス政府は、我々が置かれている無秩序を解決できないことを明確に示されたとき、我々の友人たちは、国境の外で行ったばかりの行動をスイスの領土で実行するよう求められるだろう。我々の幸福のみを願う諸国の完全な保護を今日現在でもたらせていないことは、友人たちの誤りによるものではない。

スイスの人々の消極的な態度はいらだたしいと言わざるをえない。スイスは断固として我々ちとともにあるのではなく、運命に身を任せているようである。」

団結したスイス

全体主義勢力による大規模な「平和」攻勢は言う：

「我々はスイスの幸福を望んでいる。我々は人類のより大きな利益のためにスイスと協力したい。」これらには何の問題もなく、良い話だ。我々は全世界と平和に暮らすこと以上のものを求めている。しかし、経験は、自分の運命を他人に委ねてはならないことを教えている。

彼らは言う：「まず兵士を国境よりも役に立つ場所にするべきだ」

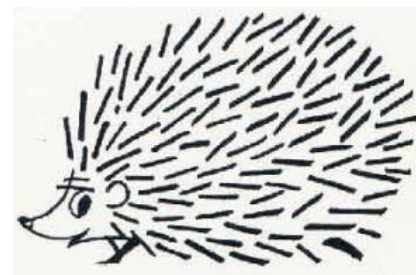
我々は答える：「それは我々が決めることだ」

彼らは要求する：「『平和のパルチザン』をもちや裏切り者と見なさないよに」

我々は答える：「『平和のパルチザン』が、我々の法律と体制を尊重するという証拠があれば、そうしよう」

我々は、厳格な中立の立場に反する同盟体制には加わらない。我々に何が適しているのか判断するのに、外国には頼らない。我々のコップは小さいが、我々は自分のコップから水を飲む。

超大国間の問題は超大国関係で解決すればいい。我々の問題は我々が解決する。我々は誰の助言も受け入れない。我々の国に「外国の裁判官」は必要ない。



首に縄をつける



我々を脅かしている外国軍最高司令官は、スイス連邦大統領を自らの総司令部に招いた。

連邦大統領は、そこへ行く必要はなかった。我々の大統領は既に社会進歩党の圧力に屈していた。

「我々が千年にわたって確立する新しいヨーロッパに、スイスが統合されなければならないことを理解していないなら、貴国は失われる。貴国は内戦、飢饉、それに起因するあらゆる無秩序の瀬戸際にいる。私は貴国を助きたい。」

しばしの沈黙のあと：

「軍の動員を解除いただきたい。我々に亡命を要請し、貴国の問題を解決できる貴国人たちと協力いただきたい。もしこれらの条件を受け入れなければ、貴国に大きな混乱が起こるのではないかと憂慮している。この場合、すべての人が受け入れられる状況を回復するために、私は軍隊を伴って、貴国に介入することを余儀なくされるだろう。」

スイス連邦大統領は、連邦参事会に報告した。連邦参事会は、スイスに隣接する国境に集結している外国軍の司令官と引き続き討議を行うことを了承した。

全体主義国のマスコミは、スイス連邦参事会が示した「理解」に歓迎した。我々の経済的破滅と流血を回避する、介入という解決策の重要性を強調していた。

我々は追従しない

1874年連邦憲法第2条は以下のように定めている。

連邦は、外国に対して国家の独立を確保し、国内の安寧と秩序を維持し、連邦諸邦の自由を権利を保護し、及び連邦諸邦共通の幸福を増進することを目的とする。

例外的な解決策を作る必要はない。

我々の憲法は我々の態度を定めている。

憲法の目的は、我々にこの遺産を残した人々によって明確に定義されている。

外国からの勧誘に耳を傾ける必要はない。

我々の義務は明確である。国内で秩序を維持する。外国からの独立を守る。

これらは、我々の国防の存在を正当化する2つの課題である。

我々は追従しない！

臆病から辞任まで、スイスは最終的な降伏に向かっていく。全体主義勢力の指導者は最後通牒をつきつけてきた。彼の要求は過酷である。我々が立ち直るには遅すぎる。連邦大統領は辞任した。軍隊は動員解除された。スイスは敵の意志に委ねられる。世論は混乱している。右翼から左翼まで、「裏切り」という言葉を投げつけ合う。連邦議会は、新しい連邦内閣の首相に社会進歩党の党首を選んだ。彼は軍の指揮権を要求した。

ある朝、ラジオは国に、「あまりにも時代錯誤な」制度が終わったことを知らせた。新しい連邦首相は「新しいスイスの大管区指導者」と宣言した。抗議した多数の治安判事が刑務所に収監された。数時間後、連邦宮殿の広場で、茶色のシャツを着た3個「平和大隊」が行進しているのが見られた。

「大管区指導者」は全権を握っている。昨日、大管区指導者はわが国の「秩序を回復する」ために外国軍の介入を求めた。名誉と忠誠の長い物語の終焉である。

政府の安定は、我々の政策の基本的な要素のひとつである。国民は、結束と強さを維持することによって、政府が公共利益のために効果的に行動できるようになることを知っている。わが国の運命に責任ある人々に疑いを投げかけることに関心ある人々の策略によって、スイスの自信を揺らぐことはない。

危機時には、特に、敵に対し共同戦線を張ることが不可欠である。スイス市民は同時にスイス兵でもある。国民は自分の義務を遂行するための武器を家に持っている。しかし、国民の義務は何よりも道徳的である。外国人から国を守り、国内の秩序を維持するという揺るぎない意志を持たなければならない。我々の意志が不屈である限り、我々は立ち向かえる。

政府を尊重することは、スイス市民の道徳的態度の一部である。国民の支持は、連邦及び州を初めとする全ての合法権力に与えなければならない。すべての国民は、同じ決意を持たなければならない。我々はスイスで人であり続け、自由であり続けたい。独立は我々一人一人にかかっている。

我々は最も悲劇的な事態を考えてきた。それは、スイスが占領され、その子供たちに裏切られるという事態である。

スイス是最悪の事態を回避するために、最悪の事態を考える必要はない

我々は、スイスがその伝統に無頓着で、少しずつ分裂し、弱体化し、裏切りと奴隷状態に陥るのを想像した。

そのような同調政策をもってしても、スイスが戦争を免れることさえできない可能性が非常に高く、スイスは外国軍の作戦の舞台になる危険性がある。一般市民は、効果的な防護手段がなければ攻撃に苦しむことになる。敵対国と全世界の敬意を失ったスイスは、外部からの助けを待てなかった。

一方、もし団結したままであれば、この第二形態の戦争に首尾よく抵抗し、その運命の支配者であり続ける可能性が高くなりる。たとえ敵が我が領土を長期間占領しても、愛国者は絶望してはならない。愛国者は独立を回復するために毎日働いていく。

屈辱と試練から新しい力が生まれるだろう。

ある日、新しいスイスが占領者に反旗を翻し、自由を取り戻すだろう。